

# 消費動向調査

「(山形・秋田)県内家計の消費動向調査」(概要)

- 調査の目的** 山形・秋田の県民の暮らし向きについての現状と見通しを時系列的に捉えるとともに、具体的な商品やサービスに対する支出動向を把握することにより、景気判断等の基礎資料を得ることを目的とする。
- 調査の方法** 専属モニターを対象とした郵送によるアンケート調査
- 調査の対象者** 山形・秋田の県内に在住するサラリーマン(勤労者)世帯(世帯人数2名以上)
- 調査期間** 平成24年6月1日(金)～15日(金)

山形/モニター世帯数: 506世帯  
有効回答数: 464世帯(回答率: 91.7%)  
秋田/モニター世帯数: 401世帯  
有効回答数: 357世帯(回答率: 89.0%)

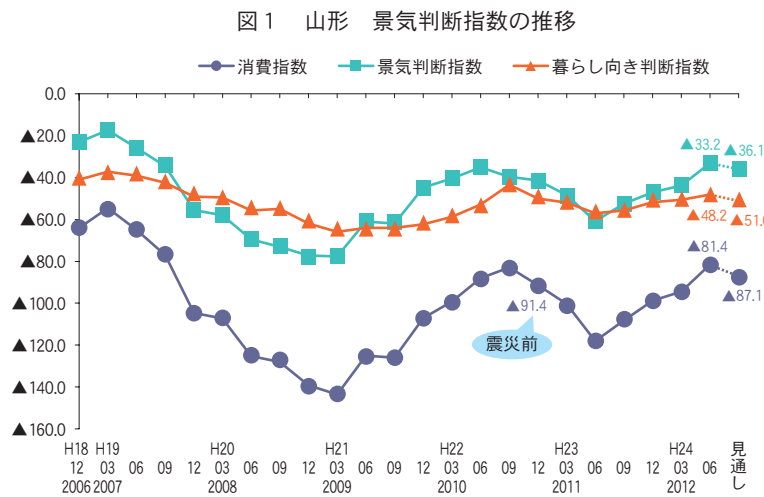
## 消費指数

### 第24回 山形県の家計消費動向調査

～4期連続の上昇が見られ、消費マインドは震災前の水準を上回った～

消費指数は▲81.4(前期比13.0ポイント上昇)と4期連続で回復となった。内訳としての景気判断指数が▲33.2(前期比10.6ポイント上昇)、暮らし向き判断指数が▲48.2(前期比2.4ポイント上昇)といずれも前期を上回っており、消費マインドは震災前(平成22年12月調査▲91.4)を上回った。

なお、今後の見通しについては、消費指数が▲87.1(前期比5.7ポイント下落)と悪化の見通し。内訳としての景気判断指数が▲36.1(前期比2.9ポイント下落)、暮らし向き判断指数が▲51.0(前期比2.8ポイント下落)といずれも悪化の見通しである。



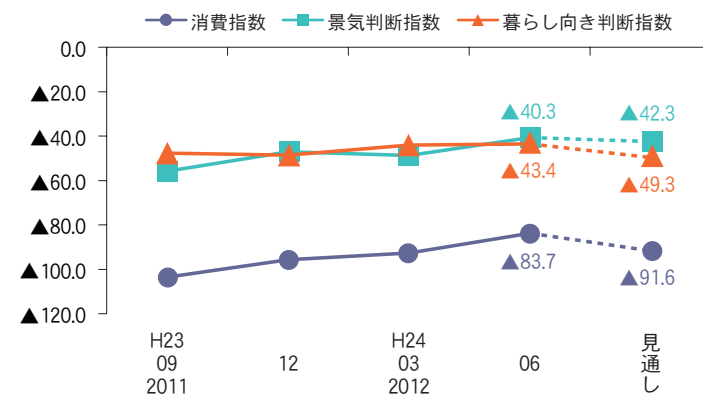
### 第4回 秋田県の家計消費動向調査

～3期連続の上昇、足元の消費マインドは改善の動き～

消費指数は▲83.7(前期比9.0ポイント上昇)と3期連続の改善となった。内訳をみると、景気判断指数が▲40.3(前期比8.4ポイント上昇)と2期ぶりに前期を上回り、暮らし向き判断指数は▲43.4(前期比0.6ポイント上昇)と2期連続で前期を上回っている。

なお、今後の見通しについては、消費指数が▲91.6(前期比7.9ポイント下落)と悪化の見通しとなっている。内訳としては景気判断指数が▲42.3(前期比2.0下落)と小幅ながら悪化の見込みで、暮らし向き判断指数も▲49.3(前期比5.9ポイント下落)と悪化の見通しである。

図2 秋田 景気判断指数の推移



#### 【指数の見方】

消費指数は景気判断指数(景気・雇用環境・物価の3項目で構成)と暮らし向き指数(世帯収入・保有資産・お金の使い方・暮らしのゆとり)の4項目で構成)の合計からなり、値は200～▲200の範囲をとります。指数がプラスであれば家計の消費マインドは高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば、消費マインドは低迷していると判断します。

## 景気と暮らし向き

### 景気判断

山形の指数は▲33.2(前期比10.6ポイント上昇)となり、4期連続で回復が見られた。指数を形成する3つの指数については、「景気(県内)」が▲10.1(前期比3.8ポイント上昇)、「雇用環境」が▲13.2(前期比3.7ポイント上昇)、「物価(日用品)」が▲9.9(前期比3.1ポイント上昇)とすべてにおいて回復が見られ、県内の景気や雇用環境、また物価上昇への警戒心は和らいでいる。特に「物価(日用品)」については、ガソリン価格や家庭用耐久財価格などの値下がり影響しているものと考えられる。

秋田の指数は▲40.3(前期比8.4ポイント上昇)と2期ぶりに回復が見られた。個別指数をみると、「景気(県内)」が▲14.5(前期比1.3ポイント上昇)、「雇用環境」が▲16.9(前期比1.5ポイント上昇)、「物価(日用品)」が▲8.9(前期比5.6ポイント上昇)といずれも前期を上回り、総じて厳しさが緩和している。こうした傾向は、ガソリン価格の低下などを受け、特に「物価(日用品)」に色濃く窺える。

### 暮らし向き判断

山形の指数は▲48.2(前期比2.4ポイント上昇)となり、僅かではあるが回復した。指数を形成する4つの指数についても、「世帯収入」は▲11.2(前期比0.6ポイント上昇)、「保有資産」は▲13.4(前期比0.7ポイント上昇)、「お金の使い方」は▲9.3(前期比0.9ポイント上昇)、「暮らしのゆとり」は▲14.3(前期比0.2ポイント上昇)とすべての指数で僅かではあるが回復した。

秋田の指数は▲43.4(前期比0.6ポイント上昇)と小幅ながら改善となった。個別指数をみると、「保有資産」が▲12.2(前期比0.4ポイント下落)、「暮らしのゆとり」が▲13.9(前期比0.1ポイント下落)と僅かに前期を下回ったものの、「世帯収入」が前期と同様の▲11.3となり、「お金の使い方」が▲6.0(前期比1.1ポイント上昇)と小幅ながら前期を上回っている。

### 家計収支

山形の収入面では可処分所得(収入の手取り額)が429千円と前年同期比で15千円の増加となり、「相続、贈与、退職金」16千円の増加などが要因となっている。一方で支出面は411千円と前年同期比で3千円減少となっている。内訳をみると、「自動車関連費用(車検・メンテナンス・タイヤなど)」が13千円増加した一方で、「小遣い、その他」が13千円減少した。その結果、平均消費性向(家計支出/可処分所得)は95.8%となり、前年同期比4.1%の減少となった。

秋田の収入面では可処分所得(収入の手取り額)が388千円となり、前期(424千円)に比べて36千円の減少となった。これは世帯主の「勤労収入」が5千円減少したことに加え、「公的年金給付」が17千円減少したことなどが主たる要因である。一方、支出面は383千円となり、前期(356千円)に比べて27千円増加となった。これは「住居費」が20千円増加したことなどが主な要因となっている。この結果、平均消費性向(家計支出/可処分所得)は98.8%となり、前期(84.1%)に比べて14.7ポイント割合が上昇している。

